発達障害のある幼児の

よき理解者・支援者となるために

富山県教育委員会

2020年3月発行

このような行動の原因としては、本人の努力だけでは解決できない困難さ（特性）が、深く関係していることがあります。

↓

もしかしたら、「発達障害」かもしれません。

発達障害って、どんな障害…？

医学的理解では、脳（中枢神経系）の機能不全に起因すると推測されています → 生まれつき、生育途中でこの神経回路がうまく機能しないと → 認知・言語・社会性・運動などの発達がさまたげられます

学習障害（LD）

＝Learning Disabilities＝

知的発達に遅れはありませんが、聞く・話す・読む・書く・計算するなどの能力のうち、特定の分野に極端な苦手な側面が見受けられます。

- ●読み…飛ばし読み、絵本などの内容理解に困難さがある
- ●書き…手本を見て文字を写しても鏡文字が多い
- ●運動のコントロール
  …手先が不器用で道具の操作がぎこちない
  ひも結びができない　折り紙が苦手
  服装がだらしない
  模倣運動が苦手

・小学校入学後、教科の学習を進めていく中で気づくことが多いようです。

注意欠陥多動性障害（ADHD）

＝Attention Deficit Hyperactivity Disorder＝

注意力や衝動性、多動性などが年齢や発達に不釣り合いで、社会的な活動や学業に支障をきたすことがあります。

- ●注意集中の困難…物音に気を取られやすい
  飽きっぽい　忘れ物が多い
  片付けられない
- ●多動性…保育室を立ち歩く
  片時もじっとしていられない
  おしゃべりがやめられない
  公共の場で騒ぐ　列に割り込む
- ●衝動性…最後まで聞かずに、出し抜けに答える
  すぐにカッとなる（興奮しやすい）

・言語発達も早く、知的発達の遅れは見られませんが、見えるもの、聞こえるものに過敏な反応をするなど、日常生活に支障をきたす行動が見られます。

自閉症・アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害

相手の気持ちを察することや周りの状況に合わせたりする行動が苦手で、特定のものにこだわる傾向が見られます。

自閉症

言葉の発達の遅れ、コミュニケーションの障害、対人関係、社会性の障害、パターン化した行動、こだわりなどの特徴をもつ障害です。最近では、自閉症スペクトラムと呼ばれることもあります。

アスペルガー症候群

広い意味での自閉症に含まれる一つのタイプで、コミュニケーションの障害、対人関係、社会性の障害、パターン化した行動、興味、関心のかたよりがあります。自閉症のように、幼児期に言葉の発達の遅れがないため、障害があることが分かりにくいのですが、成長とともに不器用さがはっきりすることが特徴です。

- ●社　会　性…人と関わろうとする意欲が低い
  「人」よりも変化のない「物」に興味をもつ
- ●行　　　動…パターン化した行動が見られる
  強いこだわりが見られる（物、人、場所、行為など）
- ●コミュニケーション…一方的に話すので、相手との会話が続かない
  感情を込めて話すことが不得手
  相手の表情やしぐさから、相手が伝えたいことを読み取ることが苦手
- ●感覚が過敏…大きな音が苦手（避難訓練やサイレンなどで耳をふさぐ）
  帽子やしめつけられる服が苦手

- ●それぞれの障害は「特性」を示す総称であって、「病名」ではありません。
- ●それぞれの障害は、いくつか同時に現れることもあります。
- ●「特性」は本人の一部であって、すべてではありません。
- ●成長段階における周囲の支援（関わり方）によって、状態が大きく変化することがあります。

障害の改善を図るには、周りの人が発達障害について知ることが必要です。

教育的理解では、情報処理過程（認知）の機能不全に起因すると推測されます → 生まれつき、生育途中でこの情報処理機能がうまく機能しないと → 学習や行動につまずきが生じます

認知（情報処理過程）

外部刺激	〈受容機能〉	〈統合機能〉	〈表現機能〉
情報 声・光・音 など	知覚する ・視 知 覚 ・聴 知 覚 ・触 知 覚 ・運動知覚　など	考えをまとめる ・記憶　・保持 ・再生　・思考 ・イメージ など	表現する ・書く　・描画 ・読む　・言葉 ・運動　・動作 など

感覚が働き、映る形は漠然としている → 視知覚が働いて初めて何かが分かる → 視知覚や聴知覚が関係し合い読み書きへ

例えば「　」を見たとき

→ ぼんやりと形が見える → りんごの形だと分かる → りんごの形と「りんご」という言葉が「りんご」という文字と同じと分かる

情報処理の段階

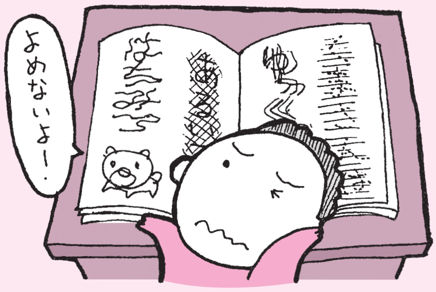
運　動 → 知　覚 → 概　念

感覚ー運動	運動ー知覚	知覚ー運動	知　覚	知覚ー概念	概　念
全身運動（粗大運動）の基盤ができて、体全体を動かし、自分と外界との関係をつかんでいく。	身体で覚えた身体感覚の情報に、目や耳から得る情報が少しずつ結びつく。	目や耳から得る情報がかなり明確になる。身体感覚よりも優位になる。	身体感覚や運動から独立して目や耳中心の働きで外界の情報を認知する。	目や耳を十分働かせ、外界の情報を概念化しようとする。	概念を働かせて外界の情報を処理し、入門期前の学習の適応を図る。

▼学習する力を育てる

幼児期は「学習する力」を成熟させるため「見る · 聞く、触る」「運動する、遊ぶ」などの経験を重ね、脳に学習させます。「知覚」の段階の成熟が、大切な準備期間といえます。発達障害のある幼児は、この「学習する力」の一部分をうまく働かせることが難しいのです。

読むこと、聞くことが苦手な子



読みの困難さは、視知覚の「図と地」の知覚に不都合があると考えられます。一文字ずつであれば、読めるし、書くこともできますが、文字が連続する「文章を読む」となると読みにくくなることがあります。「読めるのに読めない子」「読みづらさをもつ子」ということです。絵本の文字が格子状の網目模様のスクリーンで覆われている状態で読むようなものです。

ポイント１　読むこと

●絵本を読むとき、「注目したい文字（図）」に焦点を当て、「他の文字（地）」は意識の外に置いています。この視知覚の「図と地」の弁別に困難があると、文字が浮かび上がりません。うまく文字が取り出せないので、文字が追えず、文字や行の飛ばし読みやよく似た文字の読み間違いをすることがあります。

ポイント２　聞くこと

●話を聞くとき、「聞き取りたい声（図）」に焦点を当て、「いわゆる雑音（地）」は意識の外に置いています。この聴知覚の「図と地」の弁別に困難さがあると、保育場面での話や集団での指示が聞き取れないことがあります。時には、音や声が同じ強さに聞こえるので話を聞くことが苦痛になることもあります。音を聞き分ける「聴覚弁別」の困難さが加わると、似ている音声を聞き間違えることがあります。

《発達障害について知る》

幼児の立場に立ち、「どんなことにつまずいているのか」「なぜ、問題行動が起きたのか」などを考えることが、発達障害を知ることの第一歩です。

行動のコントロールが苦手な子

　多動は、外部からの刺激に過敏に反応して起こる現象で、脳の機能障害によるものです。必要のない刺激まで取り込んでしまうため、感情を抑制して行動をコントロールすることができない状態になります。
　また、状況を見ながら行動するとか、他の人の行動から学ぶという力が弱いために、自分勝手な行動と思われる行動をとってしまうこともあります。
　ソーシャルスキルが未熟なため、乱暴をする意図はなくても自己防衛的に手を出してしまうこともあります。
　※ソーシャルスキル：社会技能

ポイント１　集中力、落ち着き

●たくさんある情報の中から、自分にとって必要な情報だけをピックアップして神経を集中させることができないため、集中しなければならない場面でも、集中し続けることができません。また、場の雰囲気をうまく読むことができなかったり、騒いではいけない状況が分からなかったりして、騒ぎ出してしまうことがあります。

ポイント２　衝動的な行動

●衝動性の強い子供は、ささいなことでもカッとなることがあります。その原因としては、頑張ってもできない、自分の気持ちをうまく伝えられない、自分の思い通りにならない、などのために、自分の心（感情）をコントロールできないことが考えられます。

対人関係が未熟な子

　会話能力に遅れはないものの、たとえ話や冗談、お世辞などを理解することが苦手で、字義通りに受け止める傾向があります。言葉を字義通りに解釈することはできるのですが、言外に含まれる意味を捉えることが難しく、友達との会話がうまくいきません。
　社会性の障害によって、相手とうまく関わることができず、対人関係が壊れやすくなります。相手の表情や場の雰囲気を読み取ることができないために、自分勝手に見える行動をしたり、こだわりが強いために、相手の行動を許容できず、強く責めてしまうこともあります。

ポイント１　言葉によるコミュニケーション

●友達から「手を貸して」と言われたときは、「手伝って」と頼まれているのですが、そのことが理解できず、その言葉の字義通りに、手を差し出してしまうなど、慣用的な言い回しの理解は難しいようです。
　お母さんから「おふろ見てきて」と頼まれると、ふろ場に行き、ふろを見て戻ってきます。お母さんが「お湯の量」や「湯加減」を確かめることを期待していることは伝わらないのです。
　また、体型がふくよかな人に対して「太っているね」とはっきり言って、相手を傷つけることもあります。

ポイント２　人との関わり

●人への関心が薄いために、乳児の頃から、親だけでなく、まわりの大人に甘えることがあまり見られません。幼稚園や保育所へ行くようになっても、同年代の友達とは関わろうとはせず、集団から離れて一人で遊んでいることが多くみられます。
　また、興味や関心の対象がごく限られたものであったり、変化を嫌ったりするため、その時によって様々な対応が必要となる友達との関係は苦手のようです。

困ったときの相談先　●教育相談

・県内の特別支援学校13校には、教育相談部や地域支援部などが設置され、幼稚園や保育所への教育相談も行っています。
・富山県総合教育センター　教育相談部　特別支援教育担当
☎（076）444−6351

シリーズ2「対応編」の内容

●発達障害への対応　●支援の実際　●環境を工夫する
●集団を育てる　●保護者と共に考える　●みんなで支える
●外部支援機関